

G 29

G29/777

事 自然

たなのやなかのやか

经系新

直(近心の

多様が

B 34229

000782900

と益か一。過む相別三浦住人小田来了為城と、 後の物とはみてことのありりますのは主集 ○小田界的城村曲楊、攻へ事 といれならんできく 真りんとっちゅとうぐう くてを経り大淡地とける事をしいっとれる うしくの大型梅田りる里が内しているまとかい えーき 着。考古公田本の版と大耳中く 意言 水際名代記を十 は、などのでは、なります 後の意見を

世後しるて井伊大部が柳直はせらしっかり、はぎなりからいかのからままるのせからから、はずりからいから、まるのせからから、はなり かっというるに、天地震動し、方漢地としてよるというとと、大地震動し、方漢地と 共神なないとて曲移とでったしょうくしるの 東方。ちなり頃なの角大気とわらしときころ いからうのを由後でするり。はれく うかるとの見とう。六月サス目かったという。 一町計上地であるかり、極门寺と名村の町で方 るてえとうとのでもねときしいのかれる れとうしきる地形かり。そべて寺のひからしよ らっているはなどかというというという 書い版中すりかく、当ける我地とけるできる。婦となるとくべる場とろうにないないとう 名付出角上的中海男。中即在他门时次男在 ふろひかとろしるのをしまりむ者がすりさ を見るころのわらのれるからぬしまっちるい田 場とうけるはのでうちな一つゆるととい曲ちと けてかるは他としているとかったってきている るくとうちるのはあいいい曲ちろく益かしと 302

へて死亡る者千年人的我也的最の最大 そううな事かとうつるかくくくしかいたようり うってはでくうないうるいいかり う。我的外子了了一个歌声人也到近人 か歌山人家康公家中。井伊岩戸夕柳城人人で人とわてをとらぬれてまたの歌い うの城内から新と焼って白書してうしめた かりのいませてれわかりは一年中かるべていせの 歌とていっているのとうんでおっきんながられる としき者。天云のはかい根なを角でるの大は勝員の事 で合教し天下上巻とえるなべるとある中上の南上町寺文子三人の方士」ならん 地あくせめるとかってくれる人は終しま 四てと歌ととう。石金人村神子ら、息のと 成了多少出角土樓多久子高门というた のわらるとうなりをうれるかがかりっとう 会はる相別小田名である天下を双の名人 いいのありりぬくりつくるねべる。たのい ちてる後小田原務城百年大田馬後 そ 子前

からこうんやそか。そは大刀にんいろうねき さるかくいといるとうくの後い山外ので どろれらんもはのがてるていているよるか てき見られれりと他です。東書伊各家 なくいととからはいちはいませの名意也といいないというというというというないからいいとくいってんいいとと どろくっからな多うののい者三品は付 除性與身氏既さく。文武の大わりのとれり きょうわりまするいでいかなるんやと はの院病者といてれていん」となくをきま る眼は角をからてぬる天物の変化 微を流しるけんしくしいい者やのがあと ろうなを角でアちば人なて、世上すれから いきかられを付きまないとですわらいとしか どの後とは者があって打きてといせがい から、をあとがしとされてどろう それるようというはまれているがあったっているとうというとうないというというないというとうからいく しとえてれがあれまて強くなりるしい教か

老年。今我们也是本人是不知了 は名も電院殿選出國文者言号と必次大三十八年。秀吉公の名し切版上海のな との次男世りいだっての大きの生人そう。 をかっていまるとはした政とれてかいの天がかったのかられるところとうなるなるからのでは、大事というな王はるからのいれるとはと かり、い大事いに教りかっちる小事心和 いなみかかといる百ろ万人し対とる大男 これるあまんや。もいけいのう男一人」かよう いれてもととているうきいだろうをかつく とかりいんしじ、ねんせの直王。男とこの い事であるしているれい立る者ではと からとうとかいらくりしていればせること とから着かし、を名山太郎はからくな でくけるおりのなんもい人は飲好とか て会はの松本とはいるとのアナーラーから くと対すとすかぞんくとして必とけよう

とうというはまとうて事に教のかって これくのないないとうというないととうないというないとうないとうというないとうというというないのから はし、き上げ他のアーとほしいれ曲となく そうを角かいたりるる事。岩陰のおける としまいかとそうとうるあくるりょうしないが をうせぞろうしとかかいめてするべき さしくできる情思生病しれる命不多と者在然はよりとかけらる意味がそのな なくでメナーいるをあかかりましてるでしる 10三年青病ととりないのは思此計りま り船指とはむしってとくくるとのできる じき神明の夏盛かするきてるゆの野のり を角病人としてくるを電と。みるな人のか かずってとやしまなどろの助えるかん るかしから一を角やとようてんしのな 根治を角とらてるとううかろうてからい とうくろくろうろうと年帝度風に产後ればくろうと上足以他のから、夏山を前

けかくさそや思してれからん大ろうが 微な流しろりのとははっつる事のかしるあり えかる者一人にアイリーと言かよ無慮し くるといろいろといとわっている。但うき一 るべっというではからてれてかる名角がか りのはらいぬさせの席はつのれるましてく でりるのでにすとうしていざろの助い回してい でくれなくか中れて風とうりっとくり とゆうして、教しかるかして心をあしてる 人とうへとはくいっきしからせのちゃ くい神かと母うなるいからいらそそんなしと きかいとうるく。私曲とっていた感とう いて少人会はの感めとりけておか風中と動を さられなり、 たきれて でして はをを角とる けるとうかないとくてきましてりのできれかい ひ手。もしょうりてかきなけんねとれずのおか 付いば有師のはとわらととうい。までんとと今 おいずのむかとれりあるいとめのはのけるな 教白教書奉州麻山大明神八宝元教書というちまるとう か新西野村

と言てはる数りからいはつのなみといとき でからかりんめかり 学のおとりよれてもさったとしれました れとうっとかいというとの人もわかりといてな といかはせずしていかぬの大くっ大ちつしくうう まるうなる あうずるなってくかりはれどとて 一年一冬已九月十六日日中五双名方小級ご 微了るかかであいはかりのは者を南かり なるとろういますくえとく。後へいろのじ そにと勝負と変しいかの物ときひした文 しかりいとかっくせいする内しの歌うしつさ ふかりまとていっていてんでんと。惟雄とはとべい といけの見とするできたいうぐつ神明のは様 テの極とかとべしまでは歌りとなれ歌」と さぬてますいいかる社のをとまれてする。 恩立とるりとの神をとうくとかけれるの思え まっ神るかく阪十文まりなっているうかの えることでいうくるようというとあせる 一、自我被損と建立一方了一、若小独打了 文派等奏已九月吉目去公正之助

少名角头あるいれしまるとのやしらなくり でるなるとうてなくれるけったい まるのの間拍をかうないなねなくりの東回へをはっているとうな方からたとれて他国し えつかけなのは合しからようらいけんかはまるも 老角とうなる神的月是とれるできなり 思人るの出るくとしていいはかくしていていたとうとうとうとうとうとうとうとうとうないというとうないとうとうできているのとのというできているのとのとうないとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうという りんちとくされりとう角とっていていると まからとすかいたがいよ押しととくしかかは きないったれとからってしていはといろかい までなりとおからあすりすしとかけているの 本郷でるはるのとうところとかからいうくの を 年にアンれてとるとかくすてろうっちて ようるのかれのそそなる天下るなれるさ りいろえとなりるらい強いとまる上でとま があくからかきくんなの本郷からせるからきのからからからなくていてもれたとくだととというでき

えりかけなのは合うからすることといめになるも 少るるの大師ろいかしまるとのやうなくり 老角とうなく押付の月見とれくのさるはり あくのの場構をありるいなねなくりの東西へ まかってとかかいたがいよ押してとしている までなりとわかるあるこうすとかけているの うんちとくされりと六角りってかれると きないろうえれどからってしていはといるかい りっちてもなりるらいないとまるようと 本郷でるはるのとうところとかからいく 愚人るの虫をくなしていればかろべしってい そうなって打りせくつしゅうるできてって かくめていたいんなの本郷かてせてわさるのからあくめているとうででしたとうできたとうというというでき はき行んとうのも方からたとれて他の月ー ゆきりではなとり上の別文しくなくからの からいきからしばくっとせんと致えし ち年にかられてもるとかくすてろうっちって おといるのかれのそそれがの天下るかれるさ むるなるとうてたとれるけっとう か食巴美

からしているいるとうない方とれるという するからっちょうなり さんととかっていていれれなりの内しから なくてかるうみからかりできるれも かくせっていきい大力の名がくるとったっさいる できどおあろちの中してくくるよう りなったりいかは、ころうととりなったか からくなうらいれたを角格がくる押けられ となかできるとうわかり。勝員の 小年と名くそうかりて同じのすたかさし あるりとおれるり、但一日できるとうなといっても 下伝の風もれる様々本はとるとは者をしてもなってかりりかの太りなりできるれるらいり きるが代の名くまれるといるよろがつりの太かといい 松くの太かとかくいた。抱住しむくのみとの方と目 あるりからりているとれ合からけからあく む者でもつそくれとれてるる。まりと帰る代表 まれってくろんさりろう。けんかはしたいろう 天下了名とわけるりのともと物はした人科 角いれき角のとからみくるそれりを電といれい

るかのとうしわっているのでは、 南もそうくとこれかられている かととというはあるかんいないといえ あってするとありとをあったっとめよ 信してはるとうりが見るとうかんろうかか されてきるかのけとうできり。そうと であきっかを角しくていとかくは恋角 けっているというとうたいを角 あるれんととんだらってと格かる神 な相手てけるうどと別める後となど とうのもとりとれのを見とりさりへど りつうきぬしたかろううくを角にいか 下によりるまのかくを角のかとう かしいはとわるでうていて一打さら上にしいま かっかったかりのゆいをあるい大男の大力ある そろれ無いい男よく。うかれた切者と 向て神とうなり、あまとえん。色屋余ろ ムマーさ

後良かくうりとどかしと。飲けくとさん 歌るくなしなり。も血動の勇士しいいく そり。養動になりかり、飲かりて始れ 相模図三浦路のおりものは中でかかり とろとろすくてれからかしていると 相換の風を南三ちるはなるなるとういけ の三浦三崎の地景といれなるの としろうらあのるまかは、さけかくるい 改造の大風しへぬわりのねるるより伊豆園でき ゆの見致大湖の万まかしらくなー。けを下と 木べからくめる人様かりでんか他の名不旧と たしつう。最後国との名不旧ながかどって かきかりといない項王がいうととですり とかく目とからろうとなるとなるからも 名が旧れるのせ古寺」とればくりしくのでも るおって十金とく一もごろろなですり

自の秋のるけるではけるかにかは古草。安地見 とぬく三角修の三面の中でいいる面へらい 大海なあるとかってたくべき物のこりとしいく 場よの海之南は一とからはあり十八里町海 なそしてのためしめりれいは二名とし 多ながらしまし、こうのもあり。それしる 模がからさればよのかりしてのはるろという 順安雅者我感女也はいしょうりは二首を相どのらいれるのやい さすられしとしても見のときく をうれているいてかってかかくるのも の頃いといめを通金からは三つのもる の三ちょくいなゆくとったとれい海上の肥 高しるけったろう。時の社の氏で気を長めが 一流しい三浦場城上的し、わそいが海のけるが 近年にからのゆして、酷けなりて ねるずりを付のなけとまとうりつつできの 新国的方法次のだからしてろうでは、三浦 するかの中とあくしこ前後ととろして かしていこはからさのはだしりのときょう フもろ

三ろとる名で相接流をおり。それられのころとのとうとうないとうないとうないとうないとうないというからされべ みるとう国務さいさかく。里場尾と いそうなりならなると 多名でいし、お後後な さくまとうるとはないれるとうね人ろとして 後ろとこさてめぐれがはいるであるろ いくせんなりつろんれ場のれれる年の えーとなるがれい。見して行者では 冊体人中局太天は。名八流市也必繁し うやは 庫の南にとしてしていちか 做から、後とうをきいことはもかりとく 星傷やってつかっていさりたのかのと そはやれれり事くとはせい三年のみ 小小りついけらいた例 がんいないくなったといろうとは城ケ からう見という人とれの風の。中かの三時 夕附り場めろうちさと漕みつかいかよ

老山沙しのん。はとお後何 おくとわかくれかり。雄とう後は臭 かけはしかれるがは数中 かかりのなくない。赤路崎春陰 かられたろうる林傍飲中 之爱为了·精神海移州 最かりとはありな唐陽山口 ときまている世のかけてそくしなんがう くさうけの芝井の修うからろとれてや ろめできの記意井場民意 橋ついろがら さりとやならんというちおり はいわかいますし、岩砂は中 いりなけのようの多けみどうかられるである そでの後このそれちけとけというなるかさ 南人も。我やさひりじわっれる。麻偽が後 いけれていはんうちのみかの頃いりうんえ 松めやりまがあの名をからいいさは くりぬからでありるり間しまるの 神後のかるととといばきないがらうらゆ

くかれ東西三十町社长く。接入了の子里。 するからぬから、は格と三ろ後の前し、陰地とでる町しかり。他と三浦三ろの海上し、城ケろしるく。 人はのがみをはらはいいのかのまる。はこと からのはのいろとしろう。はというるかかけてた の過あるなったるが将後ろう さいかいてきぬりやしいりからりつと るなのはけべきより、長那後足が後であるといいと 凡のからな日ぞれるかがろろとり くれてとの意かれせとうふからりでが続 するもうくせのおれの万数とこむようともの 為不の後子。古本の美像子り。惟有山の春志を かからいの海をくころの城の山をとめぐる ゆきのしいなり。立さくざりる中の科しとと情と うできりょくみ町ねのへいわったるけるかなると はまかっこうの場かといめ版が活の三つの高り

う古青了 安房山の教がいる。たのはこれとんなるをまいかい 修る山の格をは見地のいるよりしるようけるほ 你かられるいないとと自のいかいい降氏事三 り気いれりくれててなりろやましむ人い上後山 みは光格うい。素格にの路にさるうの面とてろう でうちろうごしみついばなりてのかっちのあいり 山のれでうりってくきれのむりていれとうとかい ふからいきはお根山られ山る士のるだいかんち 南を寺大家寺西城寺。は思寺。清京寺での隆祖行子のの天像子の名を寺のかられていまる。大は古寺はは寺ではは寺。はは寺ではは寺ではは寺ではは寺ではる寺のかられたのはいといいといい 松人城からの致まっとれてきしてなりろうれる 暖のたうなるいなりのはなねっかとさまる ではしかしこせのからと成れておれてかけるる き記せ音素を安全しなる。天験りくり からなどろうどっとかんてうつ寺院上もとく きなうららかろう大椿寺の中まれるたとから ないのそのさるとなかとの海上をほんとうつ

死と中人物方子发体順家。年年の中世島は城へを行うく。豊日城ケ路人後海るさく了 は治るのはくはくとこざかとは他とればの人 答うの数のるとはしちとうかればきを人へにくろけしたりのあるののとうがはない 包乃民放身具かり。以方了的教之与人 おなくくいむとれわければい何とくひちのからかられるくてうちゃかんないのとの きてうってはとかりなまたべているいると 豆相様のみたらくくを小田名の南るかるの 人で順うといけるそのてずとはとらくなとか さるうちかりるかりまのはきのはとうといるようちがりるかりるかりるかりるかりるかりるかりるかりるかりるかりるかりるかりるかり みできかがくしとくるとうけくない 魔民改山あるかられば彼の人での海法かり。海南 のうとことれはきいめまかしみらられな からくれかり、いろし三月の怪いるしてもこと 一、外具の心をかり、三路の城心水云十十多年の数十

妻後の父妻と見けるしいころとをあると 甲寅八月朔日二不三浦三樓。饭水一、路子。 知言しれんでいまりとうしい。建之み年 がせいらくそろかりの方大将れ胡ふれ山をと の事をすでもるとろかからぬしめむる としき今。三浦三海城山の凡家と南く 他よくかられ民居民政三日市常るるて小 回名では城上としたのは南の致伝のべけくと 里面とかりていく日のはといいくれのゆ からからりるのけるは人かとある水上よ 人とうる。城るはまのはを見てりる者がりの他とそろうないかとれいいというとうとう きまりとのりようからというとうないとうとうないとうとうないのできるからのりましかかさらいってきるから 天子を酔しかり古奇かるともやらう 風しば例わりの曲水の宴とる事の他の記さ かうるとうかんの教的しも中古へは会び

今三年教祀。今代村と光小多数わり、村来家教之友小次即行光小智与本部乃得 南の一族もきなとりうろの大七日を中心 月心みかく海南之三場の上を了公う 人の軍 金の心方いううい平金かりの月サ六 きないなけれてれるとうけてもうしゃう しから月サス月の軍三次のはしばかり なりを地域からて日から設とうる又望年 そくりつのは不の眺らい前の白はも山しくす 去東科美村。你一本三即盛經祝不三即兴 きかはを流かりの今夜多むりかいつの 教にきいんさのとはましれるようよからいない 门科教堂、田庄泉门村和里海町小本即幸成了一村教堂、田村名有行平小山七郎相名和田泉 そこはのはりとくていれるとうくんなど 者養成於多次即長信外也完造山北 即香路。春谷四即金路被次及是足冠友的次即使近提不在我门村家香。七年三 小學為父子。上絕分。義意小山之即子放之南 おとうればる不差えとけるりつろろこはか すべん

るれるこれのはかい二はいおくるとことでいるれたいないのとうとうとうとうとうとうとうというという あのため。成からいと、それででれるからないからいくとは感にはしてきるであるかられることをあるのれまして たみでれるととなりした」とは人かりしろう。建 小是物多了一个多速度二年五年。三月九日 一月。同四月十七月的市发後の西谷。了小岛了像三年二月的八年五月。北月五月二月 年をかれーろいた。美利的車。三路の移を 南のはしるでいますることのようて変なから、家こはのないのれざいりはを添めるそうながら する。海上の眺らいれるべつどとからせる 海上あく後は水奇りの佐冬了をあり村世中食りとういのは代後町の前日の私としている 月十五日小多山地。月二年慶寅三月十九日沿車 きっと思かりむとううかしとして山佐のけい お車三将の秋山水を流んでいかり、なりの利かのかり、お人寛喜え年已世三月十七月辰刻。教授 とわさしかい一条しさかうしょうんうしてる てうなりひろい

也とはううる。個人は産三年を次の南くうべてとよらうう。成の八海ようたとないのはいめのからからないのではいめいとからいしから かまなののとりしているかくとこのかと 月二日了里子之場の後了る名と居人は後 を見くるとみる彼れかくたせむりとどろ や判というならのありる。一年月の戊島七 えとうかういお年三路のは、阪かるては 見る大公四年のはかい。三皮と三唐る民政の底の はつてからいから後かり回すべもやら 被可被つみとれからとうなせでしている 代のね軍の被しれの明をとうくとといいのはと 成相模寺内房。基德、親的、他行学のくまる 他のますいれるろうりてれれるともしった 古の数まれんの大きと写しける大色でも 着気の児童かとかされいなけれているとは あるるかろうんだののとはのであってう。 と放するかとき、過食数代のり軍。三将のけ りてがき後門前るとから小りとるると

そりるあるるからとうでしてのはしまる唐し 色雅大的了心市南。言格かで公園士とゆって 会を呼ばせかするりの東欧の城よったな る。勝れの城の後げの風。る國寺とこれたち 法门艺。我同指长来对意门是你手上頭了 えーきむりに除食むし、食田勝れう夫の明 万名式立の城の後何の中。東頭是人保产 る居住とる地質目古今とかりと 直子大的提系体系をなる。教育機のみとか像ととる南国東世外の後年了十八天大学の人名年三多の概以及像多に多民紀是 てははうかりとくろっまるのを教といけい ける。房川里見を馬次教を歌るうかって そ不在家一个全年多人的的成为人中人 の為於新六即次直、送心の事 日けつにからる夏夏のかいりしくてとうる

うないまのおくとろみまれからいあろうでえ 男。国八かりなかいたかや民立はとつ。か るとういうちの氏人保の成しては水を即を記 のれとかんがとろうんできぬばるがてるれ 门前成代とと、伊至の個代任人はあ上近ちが 岩が物もと号と彼馬とわりをうとうく どのそうねるち即をあり対奥かりかいる 引ゆうそうの民立も歐しるい流へも奇む をおいらしとうだってすまつりの麻の角とこつ かけまれるというの有としるしからけて とあいりのよういきいのですけなっと もでもいとかすりかく路馬かり、と人保 物やれたを引射える後毛の動」を入る教の あるかせとうできるるとうとうない いさしは世ピ別み」。成列と久保心のちす とくったりれのかとなってくったる異のなべまち 直」地行るなったのをかうないを明の雄と から中 書とおしまとうかのりしまえば

い人が村田尾は年入道が長兄也他家と次で、生命 を打ちかからうとくのとうできてる人を 一、改立うと引むる月十年三月。勝れい信 なるととは教を全天の入手の冬勝れ上はている人とれてれている人のあれかりかられていると いたわし人きろうれいまるというく時病しる そう事。なくるなでの。民車はりとかるびる とんだこれでの人物が全人の一人のころはころとうなるまっというというというないからいるというないからいるというないからいるというないからいるというないからいるというないからいいいいのできるというないからい 長るのすらっかろびれいれるははく民主多 ひする也できるいきを新されるためと 三松花のとての海南とうころの海域ととうの者也を呼ばれて大石鉄像寺正城ところの とういる飲きかいうしまちとろう大割 数なのそろうしってとうけ。後戚とうるは まってれのなかさとうたのでけるよれくら できずかわらけてえとう者。を教とちてと なまるのうとさと一帯のこみ十人村のし は村とおくの数をとうない歌車の中で うるなの称とよりもしいく切ぶ角しろうる 1

かかいからままなれば年へかりてくるのかが 交尾法寺得教之了了大秀古之下的了 であってるとは出るし、年之しで過れる は各个道楼を他中小村との道が年不の出 てるろういい新六郎とせるそそんでう 教科却合教一是食人八天工程上一七 を動向一路人民車件豆の風の風入りの人 国東小西男生れいるたは守りろめ切けてき うらりからてきちる天正十八員の年の国子 切るはいなりというとうなるの間目とそか されんかくうまして勝事とえるようと たろうからろうからのて国へかの軍去か田 多飲きるし。西國都社長陣がかつうと必 四月三日悉了一世。黄子了了事一一个月小 左馬助見とでれれる代金をつるをあり行 あり、後は平ちらるかしいるはちかのる おしまくある事。民里里のさいる历史被ハ とかくるぬけて引へをさりる動物でし な月十六日のれ。町中へととす。村田わいり。飲 と人のないこれはも、新た即父子之客法して

信感わる内目とぬさしるとといれた即二人は野 さるうしる民里少る左馬助か思切像~どと さるないは気ときしていな田が渡いしているがの むわれ天後のなとけなりんやといるとの正 法等三をすてとしとおいくとた。城中 ないと歌のよんうる者がとてわるかとそれ なんくなり、おらい西早川がて歌はおら とではるなかろからん事の独神もわられ いるとこれでありるとところしたところうなくせんとうたはなかしい版と切くもをきます で心産の谷としかくし、ねくると一下うからも ゆうちょうないまり成しましろとうかり を歌射せてみたの見つくしていまっていれ 今でれるとう大きからとから込むり でからは自むの人となる助けりくない

古公民立と大阪とあられ村面多く。養地と およっきるななはのむわってかっていと車く からかい。長はりましたかれくとう 你的人的人文都九五十十月四月民 いては人民主とを作る意思」と版艺大 それでおいれ田が迷いらうきつろうとの法學 里天時と公下了最後と選手の多秀 るをぬかした田渡くしかくらてたえ うかといめ同年の秋门家むらくくを一 りょうといっとするるといとかで、林麻の 別がた気北大国放公大店とととしなる、周東法庭が一流りて大阪かく近玄也は名いれば原 めおえるとてされるいしからくかりは と、物人民主文武小るとうとってかってりとうな 付きるるのからいらいろの果さらとるむ か馬一上のなるともの一门とかとくしゅういまと 京礼からりとはち会の民城七分与自中他 かうろれがかくからくゆての民事はモナインと とのまるなる佐のけくしとかく。対大印で 秀をこのうとうしているは盛るけれる

九一多商房川里之義言と相川小條氏改写夫 言ういい田冬頃」かなでみ被ういすると とくるとい海賊すると一人るろれる町さつい まりやせんとりから、天ごえ年三月みりつ 動をしてなっている人はいてしまりる を食くなからくしまりなれがい田をはへと がれなっととその見とからときとととと りるはいきしてははよいれるとあると の対象を考し相撲のは海とこれ。房門海賊 よのいとはなくのかりの気をのはそのち古るのため おくのはあり付くというれのというとうまっち もはわってい新六郎かかかりとるむくって り付きときればいりとうかとろう の庭林房一分平の事 きのかっつうとうのかけるかっているい ひかまかりった人のあくのわうつかい大きょのか 別ななくかられり

いとのけまる海賊なるとりい町さいざ待たもは さんなううりの事を被殺をに書へろり 変かるの住情を林せかくされていれるころ というかが者とうつんかりるかくも降去かい ちらこかからさい相様の風の位人る大阪 ているましてんでいるからみとみっという まと 博付引くんで勝員と変せりとるまら 大支也のあとこさ付勝員と没せているるかと 物せんうとうくするとすると、成者一ろうり 寺の海林と気防をからるとう。献似と見 アなれが成成でするとをはなることなかとは ることまり、変れるのはるかりるまいと までのくれはしてとの改いて今ま町 す。飲むるこけへ独自人。そへは上十人と 情がきばゆとゆるくうとうろうという 人ちてきらというのて必なとくを民政のは 三海しまるとおろっかいからのはか会者 でえた。からあく何事をしたとるもせどが 教るろはうととととかっとしてう上記へ 角地へませている人かるそくころうが言い ジでい ろくなう ころせつ

はうしまる。もちま一同れんけきて多れ とろうなは後者を教寺、ちばるとる名 でもろかさい氏正十二次国上などりしるのう月 きてんちをかり。は同ちいてとなったと。とい あいたちろうとうしまるへこれしまりともうこ わかくるいとうべいるをなしいかりと 一を成とる名のはまとうがりまくれいか 一かれからいなんとう。坊直しついとれ 全種したてのはくて見から若切る。多く すると言うはける者となったる者ところん ころ付いき屋をよりとかりのをお房 としき者小條氏型るる大きのなる極強の かとていれることのとこさは引くんで わせんいそうないでれるりっとはする すっせるいとうでかりからいろくれるこ 勝負と炎せてとるのとるかられるよう あとはようなきれるの任備をはせている 大わそう属八州上版とうのほん切よい流

そうしの民主とかのませてあるとは歌れているというというといいと、国の教をといるという うから表しいてかとうんであとると されていることとれいるよの成とからくと 東方科が傳山ところいかっちょう。ます かかろうです。あるとうんであしたとかからもを山のかかいはしてきておけるとうでき 成は八月の風東清化では運のは、色教で まってからとうではの勇者ならどとと 一日ときりです。田文な人の験しさかかと おけるをうりついれどどろしまいそろと きば大しせてすりはしなさらして三多度し まするとなってを はっまるのんしけること 者」からしましているとううるやりころ 今とかてれずりろう次中也。周面あいきして しせってもとあり、むとそいろくもや風か ての国東の腰のろくそのするかくいさいいと 行くなる。早宝しりなるるべの祭目一切」

山でようかりえかとかりならっていいかりの 田名移版といき図るれいなりです。三浦の のかれてきとけられていてるとうと した。そころうなとするないからい 信ないるるれこそりあくいうとけっさのと 成な書あれよりで日かりでとろうな女方 かる。そのさいかしいいかかりまてかに得る 夏天大正の見の中利とりのあまの方は つかり世の中のもまる親子の舟の方の上り お食の日と日のないしまし よれてとくそう。後尾はようるかです といい。後風の王といる路といいのものの王。 地面ラくなしのの面はらってっていまといって そうもゆうとのすくいっとのみやいうしと 歌からいとっとくなっんせいの内よるはった くるないかりもむえはなくのなく古法 をうしかしてるとしていとうやっちの一と ないうとれるようや。よっ人 きゅうらさのこうど きるかりいでう。実明の事からから回

あるよう大らナルな一寅の年ようと城ととり えともとどってりんの因か。年月と送り むとははしゃくういあくかろうのなしが 風之行之公多村心是这村子村。多项八联 とたとける一路りんすったと八十里のむ 王うちょけっぱさくれ去のあるしてる月日の 会とたとけってれてく。長まのとするほう 後の一方。独立其上のせるかんとかり あろうなかか いからいからかれているための りいんとうして、数上と風へぬされずり。そ 香さい人者やしろるの天のわくれとうしたろう きていと思くてかっきまりて就るの かとっさくりまのちろしととつでしてうかり。 後越上世ー上と見るとかろかっとくせの心 きてのんとそれのグラーというかん大具を かてきさかとうととくなり、数」の今下 をさいかってり、相模の回よっろうかあくる かで今年子でかいさり 地流とすてきる るかかいこれやとひんなろうと

三分一元暦九年。最か了任夷将軍力院家林と送りたい一小は近上小人を表外軍人 大わりほど一天でゆとろうなかいろるます まますでしてかりくましょせで流くと 多はちの日本を口作の日本門はいいくくのでは 夏とある遠くれ年十八月七日よららてお 田十郎小像七郎门到去即门本房马门 限したいされの直着とすいかつけいた いうかないとはかいきめいて二十二年を かる東のちかのはこの車とくめるうかみか のかうかっているとうとうようわりの保え ますけるい質のおよるまってもっていかか とかりかりの後じ民政民班三人子かと切 くいううう。底の十里りる里へるどうやき天 のはっていいますもまるたちのれてきもくるとうか かいらくするれはなとるはるの里すところ 你民打了付在馬次教明八付之。三男后然是你 を説はいないかっているとうれの女はいようといいませ 相家を守むる年にえ年上。原平するうい 松胡いせきてんなったとうちゃかのみ。伊皇の四

かていけてしていととも日か風かしているれ むまやくるかろうところないままいしく からなのをゆとはいうんなはつきます。 いいつできずるからなくという きしているなんたるいなるでとなるしい りのないのうとはいうのとなてって さりとよく天里のたりできるとれるいんのかと とうべいの果事場のとうとかんでき さいしょうしいりのましるがあっととれいる はてきかくのおろとの直むにきべいれると やすくている。はいのなのもれいまれたのなりというという よれどかろうようれさるたのかしい。数 とういからうし 〇大力草と海道」珍子事

佛を傷道がねところのりのみあからるとなりとうにはいうとうとうとうとうないからいからいかられる そんのんともがゆーくかせる同情をうれという がいてんとのしめといくけっきょうこうとと と。智真をなるうくとないれるいかと 色えどすれできれいめとろうとぬてきから きかりひかしきまかり。独してれ年をろう らんかはきてしているのないがありあいて 的古今人 よるかくいろうとけで派がうわり面白の奇の 大きちとかゆきです大きくとかゆって直とせようるとうよいかつからくのあっていること 見れているとろうのはころとうではるとうとろうとろうとはころとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとう。古ろう るとないがとれいいわりまするかり。 あのでもかんべんばんとまつ村の生んちり されくるれと見てきるううりくられる ねんないあく。れてのこれでやくえんだれる。 の安全とうとのでかられずにもなっち 持ちてくのまときくんとるのどけるい

そうのを心ちけったがあるれいととれる 鱼む着年のいい除民車国八州山殿をつるいま た。そんなとうてきしどっちるなれいはわる 西南かりう大きくとようくといする者も かくできるななかしくりなま。再しいかにき うなっとこのまするまするというというと そえど、大大政かして小田を多版とよりと たざれる歌のひりつくするか神後とけとかすら およっかれりでもかりている。裏祖の名を かくとくるせんかにまと言くからはる地と なるではしとれーゆりろかれまりと ざいと上月のいれる年と送りん事としき かとせれず三蔵かて交よくれるれるとなっ 海ろし珍かりた格が者もろうととる思 りいれるとまるかってくもちくとってくくの活り たかしなまるがとるつのも戦したいく ろいうこういりかとうとしみりもあろ むゆていむれかせいというかれどもおかり なるやくなくしくつかかかとりべつか 今きられ世とうとしとしむは花のし

きたけっかかかったとめなくえろからむ。 もとるゆからくと付きてんしゃっれがくさを 袋とやいろんかかのまかそうじれるよりから 松子うからしゃれというかくる」の集物の中 かんないろうではしてきずかいころいん 眼のれかられるとやうまですのはといれたとうころいろうれいるるのもくまとうという 色玉砂のかりっきれいは無物の天名と。東大は まゆうすべてくささ大の平しのこの海道かていてくくと来ずるよの見明集の後い金と 付となり、二日まべると帰きまりと呼んでういめているとうからっていれともりのまたと かり、世継序しれがいる事でしないけれる おいわくの質はのとくまわり。もなして多数の 版からかんちしろうとますれからさな あるな事あるれるするかといるんと 人のるくなななの他をはくいろりょうかられるいい さまりずれでととれしける祖明道からよ 用とならんでかれとうかられるものかとも 明の人教へのするしいときてもはさるからの

こかれを拾いりとうさき大のなっろとも打修 大のはというよい大きれて、金玉と松ひるいろから 古の食るとうくろわらかくのちょうかしいも こうつとなくらうであしせんくやりんのからも 本めしましかとていいるべしっちざまかの内しり 失かくの失るといるとまるこうとうさん それ食まるかかくかくのやしされた とるうじろくれからべしいき上あるは得るく のむて小童となしよう

からますとううへのはしてからいろして きるを降したがのうくなどうとう はっなくかとですしてはり起させんな かしかとるまめつかなるとういいる。後は てうるとかいされんでかれるほれろうしていと回やすととせからうり てもり、我何かなとろうられてしとかい 多うしといいてなんとかしっていい 一事かれの政内の黄素と金かりとう しているなるとうとううの上しまう

まの国ととかくなんととされかり としてるおはしる素すくるさいのやりりす ちからかる事ととうしなららどっと のあざりの豊樹地をわくさいやっちいわき 像とかりできるでは事けん城しく けいけくるけてるもとそう。冷使の脂次早 なんなすいいかで、水がしかのるもあり。ち たけ物法のしいうあしんとうのころととる からかられるまたとっとれたですり でとんするめいなりとというのはれいで うんたっかれるはまからないとるまのすり あってき風によううきましいとことせのお 新とかいとっと何とのを称ところりちきか くからとしているれーい。眼気の変活と てむときわりなどでと古か集り 人のうかしものというできつうかいとからさ りする人がともあるやあんりしな

多」住でれとと。ねくろせいるめのうちっちん なとおうできるれかし、後果とぬとればかと 重りまでというたは発長をのるいる 夏の世ぞくらさらうるしてるいますは場から ス十年のってれていしかいての何事も一次の そいるのなろんとおでうり也かくくはら きれのこれの名は周の上しいとかりいといい 古奇了 とからいいれき時慶長松五寅の年季 あるるんがかりなきで世のられるなしと 山の残のれりとくてできらいれ場の雄み はいつうりきも、他人もというそうん。 智道だゆしてくるうりなうかりまれい。 をんているとはしくっくっているととかる をはつからる。まやとろういきりちし かれ事まなのないうるでやしていむ でう。降きるうりりあるからとさいける りもほったしかけるからにひとなる。今 へくしる。このもろうできる

冬後のス日記之具

寬永松八平香 小峰久代武老尹十份

さるのないというべんで

CHARLES TO THE STATE OF THE STA が、そうでは、これのないであるようでは、 朋友

